

【研究ノート】

## 1944 年篠山城大書院の失火に関する伝承について

北村昌卓<sup>1</sup>，平井敬<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科，大学院生

<sup>2</sup> 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科，准教授 博士（工学）

1944 年 1 月 6 日に篠山城大書院が焼失した。この原因について通説ではただ失火とだけ伝わっており、詳細は不明である。しかし、一部の伝承では多紀郡各町村の消防団による合同出初式後の宴会時に、たばこの火の不始末によって火災が発生したという。本報では、この伝承について出处や真偽を調査した結果をまとめる。

キーワード：歴史災害，火災，多紀郡，篠山城

### 1. はじめに

現在、丹波篠山市の観光名所の一つになっている「篠山城大書院」は、21 世紀に翔ける街づくり事業として、1996 年から 1999 年までの 3 年をかけて復元整備されたものである。兵庫県多紀郡篠山町（現、丹波篠山市）の篠山城大書院は、1944 年 1 月 6 日夜に焼失した。火災の原因として明らかになっていることは「失火」であることのみで、どのような原因で失火したのかということは、現状定かではない。1944 年（昭和 19 年）というと、第二次世界大戦の真ただ中で、いわゆる「戦時中」という時代である。戦時下の混乱はあるものの、明治維新以降の近代社会での出来事として、「失火により焼失」という表現は少々大雑把な表現である。篠山城大書院焼失した出来事について、「多紀郡各町村の消防団による合同出初式後の宴会時に、たばこの火の不始末によって火災が発生した。」との伝承があることを確認した。本報では、この伝承について、これまでに検証した内容についてまとめる。

なお、本報では、明治 5 年までの旧暦は元号で、明治 6 年（1873 年）以降の新暦は西暦で表す。

#### 1.1 丹波篠山市と篠山城

丹波篠山市は兵庫県の中東部に位置し、総人口は 39,993 人（2022 年 9 月末現在）。2019 年 5 月に「篠山市」から「丹波篠山市」に改称した<sup>1)</sup>。市域はかつての多紀郡に一致し、篠山・西紀・丹南・今田の 4 町が 1999 年 4 月 1 日に合併した街である。その丹波篠山市の中心部、市役所の前に篠山城跡はある。

篠山城は、篠山市教育委員会（当時）と篠山城大書院によると<sup>2),3)</sup>、慶長 14 年（1609 年）に征夷大

将軍である徳川家康の命令によって、「笹山」と呼ばれる丘陵に築城された。普請総奉行は池田三左衛門輝政、縄張奉行は藤堂和泉守高虎である。出入口を守る馬出しが特徴の城で、天守台はあるものの天守閣はない。初代笹山藩主は、近隣の八上城城主であった松平（松井）周防守康重で、その後寛延元年より廃藩まで青山家が務めた。本丸の中には廃藩後の1882年に、旧笹山藩士の有志によって青山家の遠祖を祀る青山神社が創建された。

## 1.2 笹山城大書院

笹山城大書院は笹山市教育委員会<sup>2)</sup><sup>3)</sup>によると、笹山城大書院（以下、大書院）慶長14年の築城と同時に建てられたと考えられる書院造の建物である。笹山藩では、新年の祝賀行事や、公式行事に使用された。1873年の城郭取払令で、城内のほとんどの建物が取り壊される中、城内最大の建物であった大書院は、取り壊しに多大な費用が掛かるため放置された。その後、1875年に小学校（今の笹山小学校）に、1910年には多紀郡の公会堂として利用されたが、1944年に焼失した。

## 2. 大書院（多紀郡公会堂）焼失と伝承の検証

1.2 で述べた通り、大書院は1944年に焼失した。



図1 笹山城址焼失を報じる新聞（神戸新聞 昭和19年1月7日 夕刊）

神戸新聞の当時の報道<sup>4)</sup>を引用する。

六日<sup>1)</sup>午後十時ごろ丹波多紀郡笹山町舊本城縣三田土木出張所笹山派出所附近から出火舊大書院、多紀郡公會堂など城台青山神社社務所を除き全部失焼失した。

慶長十四年豊臣家滅亡のころ時の伏見桃山城の一部をこの地に移して<sup>2)</sup>建設し、多紀郡八上村高城山より松平康重公初代の城主として赴任したが、時代土木文化建築の粹を集め丹波路に聲（原文ママ）ゆる一名所であった、なほ城台に鬱蒼と茂る杉の大木により火焰を防ぎ、城下町笹山町の延焼を免れたのは不幸中の幸いであつたが損害原因なほ取り調べ中である。

### 2.1 伝承の検証

現在、多くの文献や、展示などでは、大書院は「失火」により焼失したと語り継がれているが、それ以上の情報は、通説ではあまり触られていない。しかし、先述した一説原因であれば、タバコの火の不始末が原因である。この件に関して現地調査と文献調査を実施した。

<sup>1</sup> 1944年（昭和19年）1月6日のことを指す

<sup>2</sup> 伏見桃山城を移したという記述は、今回調査の他の文献中には見当たらない。

### 2.1.1 現地での調査

現在復元され、展示施設となっている篠山城大書院に、展示物の確認をするとともに、事務室に問い合わせを行った。展示内容に関しては、失火によって焼失したと記述されていた。問い合わせに対しては、「大書院でも調査を行っているが、確たる証拠はなく、原因の究明に至っていない。」といった回答であった。

なお、篠山城大書院にて 10 年以上前に、「消防団員のタバコの火の不始末によって燃えたのは事実だが、ご存命の当時の消防団員の方の心情を鑑み、公表していない」と聞いたといった情報を得たが、こちらに関しては、それを証明する根拠がなく、参考情報にとどめた。

### 2.1.2 文献調査

書籍と新聞報道に関して調査を行った。当時の一部新聞<sup>4)5)</sup>には、篠山城の焼失に関する記事を掲載されていたが、焼失した事実を示すのみで、焼失の原因に関しては触れられていなかった。当時は第二次世界大戦の最中であり、戦争に関する記事が大多数を占めていた。

書籍に関しては、多数の書籍や文章<sup>2)3)6)9)</sup>で多少の言い回しは異なるものの、「失火により焼失」とのみ記載されていた。失火よりもさらに踏み込んで記述された書籍は 2 つ確認された。神戸新聞丹波総局<sup>10)</sup>は「箱大鉢の火の不始末から焼失」と記載していた。西ヶ谷<sup>11)</sup>は、「大書院も昭和 19 年の火災訓練で失火、焼失」と記述し、本報で取り上げている伝承の「合同出初式後の宴会」に一番近い形で記載されていた。

また、史跡篠山城整備基本計画<sup>3)</sup>には「廃藩後の大書院は、小学校や女学校、さらに多紀郡の公会堂として使用され続け、郡内住民のよりどころとなっていたが、大きな失望感が郡内を覆った。」と記述されている。

## 2.2 「郷友<sup>きょうゆう</sup>」について

一連の調査の中で、「郷友」という名称の雑誌にたどりついた。郷友は多紀郷友会（以下、郷友会）が年 3 回、郷友会会員向けに発行する会誌である。「成熟地方都市の形成」<sup>13)</sup>によれば、郷友会は、1891 年に旧藩主青山家に養育生としてかかえられた旧藩士子弟たちを中心に結成された多紀郡関係者の親睦団体で、会員は旧藩校鳳鳴義塾（今の県立篠山鳳鳴高校）出身者が多数を占める。また、郷友については、現在も発行し続けられており、郷友会創立創刊 100 周年記念号<sup>14)</sup>によれば、創刊は多紀郷友会の創立と同時期で、1891 年 10 月 23 日に「多紀郷友会雑誌」として創刊している。戦時中に関しては、1944 年 5 月 15 日に郷友第 258 号を発刊したのを最後に戦中戦後の休刊期間に入り、1949 年 7 月 20 日まで休刊した。郷友は、2023 年現在も発行を続けており、丹波篠山市立図書館がほぼすべてを所蔵しており、兵庫県立図書館もすべてではないが一部所蔵していた。

「郷友」は、会員それぞれが寄稿することで成り立っているようである。その中で、篠山城大書院復元完了についての文章が、郷友 399 号に新家茂夫氏<sup>3)</sup>によって記述されており、郷友 399 号<sup>14)</sup>には、「唯一残された大書院も、昭和 19 年（1944）1 月 6 日の夜、思いがけない失火により全焼してしまうという事態を招き、ついに城の建物のすべてを失うという結果となってしまった。」と記述されている。また、そのあとの文章で、当時の惨状が「郷友」257 号に掲載されていることも紹介しており、「高石垣

---

<sup>3)</sup> 国市指定史跡篠山城跡大書院復元整備期成会 会長，元多紀郡町村会長，最後の篠山町長

の大建造物が強い西風にあおられ、忽ち火の海と化し、水の手はなく只々呆然としている外なく、樺の大柱が火の棒となり、火の粉は高く舞い上がり、立町、河原町まで飛び散り、東の杉の大木まで衰れに灰燼に帰してしまった。惜しんでもあまりある一大悔事にて、痛恨に耐えない。」という文章を引用している。

郷友 257 号は 100 周年記念号の記述から考察するに、1944 年の大書院焼失直後の発行である。丹波篠山市立中央図書館に所蔵を確認したものの、前号の 256 号と次号の 258 号の所蔵を確認したものの、257 号は欠損しており、当該箇所のみ所蔵を確認できなかった。また、そのほか多紀郷友会にも問い合わせ、所蔵している可能性がある場所を尋ねたが、多紀郷友会事務局、兵庫県立篠山鳳鳴高校、兵庫県学生寮尚志館、兵庫県立図書館、国立国会図書館では所蔵が確認できなかった。

### 3. 考察とまとめ

今回の調査では一つの伝承について取り上げたが、確信となる情報はなく、結果を見出すまでには至らなかった。今後、調査を積み重ね、失火原因について確認していく。篠山城大書院は焼失して 2024 年で 80 年である。今の時点で検証しておかなければ、今後真実の究明はさらに困難になっていくものと考えられる。

### 謝辞

本報執筆にあたり、兵庫県立大学神戸防災学術情報館司書の山口祐子氏には、文献探索に大変ご尽力いただきました。心から感謝いたします。また、篠山に地縁のある著者の親戚の皆様にもご協力いただきました。お礼申し上げます。

### 参考文献

- 1) 丹波篠山市：令和 4 年度版丹波篠山市統計書，丹波篠山市，2023 年 3 月 30 日最終更新
- 2) 篠山市教育委員会，篠山城大書院：篠山城跡大書院，篠山市，2001
- 3) 篠山市教育委員会：史跡篠山城跡整備基本計画，篠山市教育委員会，2019
- 4) 神戸新聞社：神戸新聞，1944 年（昭和 19 年）1 月 7 日 夕刊
- 5) 朝日新聞社：朝日新聞，1944 年（昭和 19 年）1 月 8 日 朝刊 兵庫版
- 6) 篠山地方観光協会：ささやま風土記，1988
- 7) 篠山町役場：篠山町七十五年史，篠山町，1955
- 8) 篠山町史編集委員会：篠山町百年史，篠山町，1983
- 9) 篠山市教育委員会地域文化課大書院復元室：国指定史跡篠山城跡大書院復元工事竣工記念誌 二〇世紀から二一世紀へのおくりもの，篠山市，2000
- 10) 神戸新聞丹波総局：丹波の城（改訂版），丹波文庫出版会，1988
- 11) 西ヶ谷 恭弘：日本の城郭を歩く 古写真が語る名城 50，JTB，2001
- 12) 藤井 和佐 編著
- 13) 藤井 和佐，杉本 久未子：成熟地方都市の形成 —丹波篠山に見る「地域力」，福村出版，2015
- 14) 多紀郷友会：創立創刊 100 周年記念号 郷友 第 374 号，1991
- 15) 多紀郷友会：郷友 第 399 号，2000

Note:

## **Tradition on the Misfire of the Oshoin of Sasayama Castle in 1944**

Masataka Kitamura<sup>1</sup>, Takashi Hirai<sup>2</sup>

<sup>1</sup> Graduate School of Disaster Resilience and Governance, University of Hyogo, Graduate Student

<sup>2</sup> Graduate School of Disaster Resilience and Governance, University of Hyogo, Associate Professor, Dr. Eng.

### **Abstract**

On January 6, 1944, the Oshoin of Sasayama castle was destroyed by fire. The cause of the fire is commonly believed to have been simply a fire accident, and the details are unknown. According to some traditions, however, the fire was caused by the mismanagement of a cigarette fire during a banquet held after the joint New Year's Ceremony of the firefighting teams of the county. This report summarizes the study on the source and authenticity of the tradition.

Keywords: Historical disaster, Fire, Taki-county, Sasayama castle,